

1-8

演題	心をつなぐバリデーション
副題	～自分も変われば認知症の方も変わる～

寄り添うケア
介護技術

法人名	社会福祉法人 緑成会
施設名	新緑の郷

発表者名 (職種)	平 龍 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者	村上 賢	住所	川崎市高津区久末 473 番地 14
共同発表者		TEL	044-948-7025
共同発表者		FAX	044-948-7023
共同発表者		メールアドレス	nakajima@midorinosato.or.jp
共同発表者		URL	http://ryokuseikai-yokohama.jp

今回の発表施設 またはサービスの 概要	特別養護老人ホーム 新緑の郷 (川崎市高津区久末) ・入居者定員 本入所 128 名 ショートステイ 8 名 ・2F～3F 従来型 88 床 ショートステイ 8 床 ・4F～5F ユニット型 40 床 ・人への思いやりを大切にし、良い施設づくりを目指しています。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

私たちが働いている認知症対応フロアでは介護歴 5 年未満の職員多く、アンケートを行った結果認知症の方への対応に不安を感じる、自信がもてない職員が半数以上見られた。

その為、帰宅願望が見られた際に「お泊りですよ」、「ご飯食べてから」とやり過ごすケア (パッシングケア) を行っていることが多く、対応に困っている職員見られていた。その為、認知症ケアの技法のひとつである「バリデーション」を学んだ。

バリデーション導入前後で職員のケアにどのような変化があり、ご入居者の気持ちに寄り添ったケアをすることで変化があったか検証した。

取り組んだ課題

- ・バリデーション導入前後で職員の認知症の方に対するケアの変化
- ・帰宅願望や不穏時に対してパッシングケアをしていることが多く見られている
- ・介護歴が短い方が多く、介護職として自信がない職員が多い

具体的な取り組み

- ・バリデーション導入前後の変化の検証
- ・検証期間 2024 年 10 月～2025 年 5 月
- ・検証人数—入居者延べ 40 名、介護職員 19 名

活動の成果と評価

- ・入居者様に思いに寄り添う事で安心感を与えられた
- ・パッシングケアをする職員を減らせた
- ・介護職としての自信向上

今後の課題

- ・夜間帯実践しやすいが日中帯は取り組むことが出来ていないため取り組んでいきたい
- ・施設全体で認知症の方に寄り添ったケアを浸透できるように取り組む

参考資料など

認知症の方とのコミュニケーション法「バリデーション」とは？ | 介護の便利帖 | あずみ苑—介護施設・有料老人ホーム レオパレス 21 グループ
<https://www.azumien.jp/contents/method/00044.html>